

# 東京2020オリンピック・パラリンピック開催迫る！

## サイクルスポーツの聖地実現へ

「スポーツの聖地づくり」を合言葉に、スポーツの普及や交流の拡大などを目指す静岡県は、県民がスポーツに親しむ環境づくりやトップアスリートの育成などを積極的に行っている。今回は間近となった東京2020オリンピック・パラリンピックへの取り組みを紹介する。

### 開催日程と見どころ

東京2020オリンピック・パラリンピック（以下「東京2020大会」）では、県内3会場でBMXを除く全ての自転車競技が行われる。

244kmもの距離を一日で走りきる過酷なロードレースや、新設され難易度の高いコースとなったマウンテンバイク、猛スピードで周回する迫力が魅惑のトラックレースが行われるオリンピック。男女混合レースや、障害の種類や程度によってさまざまなタイプの自転車を使用するパラリンピック。それぞれに違う魅力を楽しみたい。

東京2020オリンピック・パラリンピック 県内の開催日程と会場

月	火	水	木	金	土	日		
7月	20	21	22	23	24 開会式	25	26	
						ロード(ロードレース)		
	27	28	29	30	31	1	2	
	マウンテンバイク		ロード (個人タイムトライアル)					
	3	4	5	6	7	8	9 閉会式	
	トラック							
8月	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25 開会式	26	27	28	29	30	
		トラック						
	31	1	2	3	4	5	6 閉会式	
		ロード						



### 佳境を迎えた準備作業

新国立競技場の完成、出場選手の内定・決定、聖火ランナーの発表などのニュースも相次ぎ、国内はいよいよ本番に向けカウントダウンの様相だ。開催地として周到な準備を進めてきた本県も、大会の成功に向けてラストスパートに入り、期待は高まるばかりだ。

これまで、1年前など節目ごとにイベントを開催し機運醸成を進め、オリンピックやパラリンピックの競技体験などを通じて関心は一層高まっている。今後も100日前イベント、県内聖火リレー（オリ：6月24日～26日、パラ：8月18日）、乗換駅周辺に統一的なデザインを施す都市装飾などの実施で、県内全域は東京2020大会一色に染まっていく。

### 円滑な運営と安全の確保

現在、本番に向けての準備作業は仕上げの段階を迎え、会場となる本県は、大会の円滑な運営と住民・来訪者の安全確保に

### 全力を傾けている。

交通対策においては、平面交通の立体化や道路の拡幅などアクセスルートの整備にいち早く着手し、観客や大会関係者らが安全かつ快適に移動できるようインフラ整備に取り組んでいる。

交通規制に関しての対策も進む。トラックレースなどが行われる会場周辺では、大会輸送と観光需要との両立や市民生活への影響などを考慮して、首都圏のような広範囲におよぶ交通規制は行わず、代わりに道路利用者に對し、大会期間中の交通行動の見直しを働きかけている。早い段階で情報を周知することで、多くの人が移動の経路、手段、時間帯を見直せば、大きな混乱を避けることが可能になる。

また大会当日に向けたより実践的な準備も進めている。交通輸送での課題を整理するため、本来無観客で行うテストイベントで、県は観客を募集し、大会組織委員会と連携して、シャトルバス輸送の効率性や移動経路の安全性などを検証した。そ

### の結果を本番に生かしていく。

開催期間中は夏季となるため、安全対策として暑さ対策も欠かせない。専門家を交えて実施した現地調査の検証結果に基づき、会場への最寄り駅やロードレースの沿道などでの、日よけテントやミストシャワー設置のほか、保冷・冷感グッズの配布など各種対策を検討している。

円滑な大会運営として、国内外からの来訪者に対する「おもてなし」も大会成功を左右する大事なポイント。一般公募した都市ボランティアは平成30年からさまざまな研修を重ね、テストイベントのシャトルバス発着駅で交通・観光案内を行い、実践力に磨きをかけている。

### 広がる交流

東京2020大会は世界中の人々が平和的に交流する場にもなる。

大会期間中は、大会組織委員会と県・市が「東京2020ラ イブサイト」を共催する。ライブサイトはチケットを持たなくても、競技会場以外で大会を体験



国内で唯一、自転車専用の室内木製走路を備える伊豆ベロドローム。周長250m、最大カント(傾斜角度)45度。



木舗装の山道を駆け抜けるマウンテンバイク。天候やレース展開により刻々と変わる路面状況が勝負のポイント。



ロードレースのテストイベントで龍坂峠を疾走する選手たち。



東京2020オリンピック・パラリンピック開催迫る!

サイクルスポーツの聖地実現へ



矢羽根型路面表示で確保された自転車走行空間を快適に走るサイクリスト。安全を確保できれば視界も広がる。



ハイシクルピット。本県は休憩・修理・緊急時に利用できるスポット整備も進めている。



タンデム自転車。後方に視覚障害のある人、前方にない人が乗車し、二人の力を合わせて走る。

自転車競技のアジア中心地への成長と自転車アスリート育成体制の構築に向け、国際的な自転車レースの誘致、競技団体のトレーニングキャンプ地の本拠地化、企業と連携したパラサイクリストの発掘支援などに取り組むこととしている。

サイクルツーリズムも計画に盛り込まれている。本県は富士山や駿河湾をはじめとする豊かな自然に恵まれ、起伏のある地形、温暖な気候、世界クラスの観光資源など、県内各地で一年中サイクリングを楽しめる環境や条件がそろっている。そこで国内外のサイクリストに本県を訪れ交流してもらうことを目指し、浜名湖一周ルート、富士山一周ルート、伊豆半島一周ルート、太平洋岸自転車道を「世界クラスの資源群を巡るルート」として県のモデルルートに設定。今後、ナショナルサイクルルート(※1)に指定されることを目指す。そのために、ハイシクルピットの整備、宿泊・観光施設のサイ

クリスト受入態勢向上、鉄道・バスなどとのモーダルミックス(※2)促進、サイクルイベントの開催、e・BIKE(電動アシスト機能付きスポーツ自転車)のレンタルシステムの構築など、国内外のサイクリスト憧れの地域となるよう、環境整備を進める。

安全・快適に誰もが自転車に親しめる社会の形成も計画の柱となっている。自転車の魅力や楽しさ、健康増進、CO2削減効果などをPRするとともに、安全のための交通ルール・マナーの啓発、ヘルメット着用や自転車損害賠償保険の加入促進などを展開する。

県内全市町の自転車活用推進計画策定の支援も計画に含まれ、良好な自転車の走行空間形成に向けて、まちづくりや交通安全事業と合わせた自転車走行空間の整備を進める。県が管理する道路では、矢羽根型路面表示の延長を令和3年度までに276kmとする目標を掲げ、

既に9割以上の整備が完了している。

**憧れの聖地へ**

スポーツは人々に心身の健康をもたらし、生活に潤いや活力を与えるとともに、国や地域、世代、言葉の壁を越えて、互いを理解する場を提供する。そうしたスポーツの可能性に加えて、豊かな自然など本県が持つ魅力を生かして、サイクルスポーツの聖地づくりを進めていく。

東京2020大会を県民全体で盛り上げ、成功へ導きさまざまなレガシーを創出することで、本県は名実ともにサイクルスポーツの聖地となるだろう。

東京2020大会を一過性のイベントに終わらせないためには、開催後にさまざまなレガ

### パラサイクリングの普及

また、開催を契機に、多くの市町がホストタウン交流や、事前キャンプ受け入れを進め既に海外の代表チームの強化合宿などの受け入れを通じて人的な交流が続いている市町もある。トップアスリートが学校や文化施設を訪問し、子どもたちと交流するなど、スポーツはもちろん文化・教育面の交流も進んでいる。大会の開催をきっかけに新たな関係が広がり、大会後も交流が続いていくことが期待される。

できる場所だ。全国30カ所のうち本県では6カ所で競技中継、ステージイベント、競技体験などを実施する予定である。この他に市町が主催するコミュニティライブサイトや、競技中継のみを楽しめるパブリックビューイングを各地で開催する予定で、県民の多くの参加が期待される。

レガシー創出に向けて

県は、大会の成功はもちろん

県は、パラサイクリングを支援する団体の設立とその活動を通してパラサイクリングを普及することにより、障害のある人もない人も住み慣れた地域で豊かに安心して暮らすことのできる共生社会の一助としていく。

昨年12月に東京2020パラリンピックの250日前イベントとして、全国初となるパラサイクリングの県大会を開催。当日はパラサイクリングの乗車体験会などが行われ、視覚特別支援学校の生徒などの来場者は、改めてパラサイクリングの魅力を知った。また、障害のある人となない人が力を合わせるタンデム(二人乗り)自転車にお互いの心が通じ合う大きな可能性を見出した。

シーを残せるよう、長期的な展望に立つて施策を進めていくことが重要になる。パラサイクリング(障害のある人の自転車競技)の裾野拡大への取り組みもその一つ。

のこと、開催後のレガシー創出のため、準備段階から大会後を見据えた取り組みを進めてきた。目指すゴールは「サイクリストの憧れを呼ぶ聖地ふじのくにの実現」だ。

平成28年に設立した「静岡県サイクルスポーツ協議会」を、平成30年に「静岡県サイクルスポーツの聖地創造会議」へ拡大。再編し、官民協働でサイクルスポーツの普及促進に努めている。大会後のレガシーについても、この会議で検討してきた。

また、競技関係者、施設所有者、市町などで構成する「レガシー推進委員会」を設置、大会後の会場や周辺施設の利活用や、そのために必要な機能など、具体的な議論を進めてきた。特に、マウンテンバイクのオリンピックコースは大会終了後、エリート選手から初心者まで利用できる場所とするほか、国際大会の誘致・開催を進めている。

さらに、平成30年度に「静岡県自転車活用推進計画」を策定。明確なビジョンを掲げ、取り組みを進めている。計画で本県は、自



浜名湖一周コースは起伏が少なく、初心者でも気軽に楽しめる。レベルに応じて多彩なコースを選べることも本県の強み。

※1 日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルートを国が指定する制度 ※2 各交通機関がそれぞれの特性を生かして連携し、効率的な輸送体系を作ること